

令和 4 年度シラバス (地理歴史)

教科 (科目)	地理歴史(歴史総合)	単位数	2 単位	学年 (コース)	1 学年 (全コース履修)
使用教科書	『高等学校 新歴史総合 過去との対話、つなぐ未来』(第一学習社)				
副教材	『明解 歴史総合図説 シンフォニア 最新版』				

1 学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。また、総合目標を達成するため、以下の(1)～(3)の目標を設ける。

(1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

(3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2 指導の重点

- ① 中学校社会科における学習内容を復習しながら、基礎・基本的な学習事項の定着をはかる。
- ② 新聞やニュースの話題を定期的に取り入れることによって現代の状況と歴史を結びつけ、現代社会が抱える課題についてより深く多角的に考察する力や課題解決に関わろうとする態度を育む。
- ③ テーマ学習やレポートを取り入れ、学習内容を工夫して整理したり自分の言葉で表現したりする能力の育成を目指す。

3 評価の観点と基準、評価方法

観点	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
評価基準	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。
評価方法	定期考査、提出物の内容と提出状況、授業中の発言・取り組みの様子などから	定期考査、提出物の内容と提出状況、授業中の発言・取り組みの様子などから	出席の状況・提出物の内容と提出状況・授業中の発言・取り組みの様子から総

	総合的に判断し評価する。	総合的に判断し評価する。	総合的に判断し評価する。
--	--------------	--------------	--------------

4 学習計画

月	単元	学習内容と学習活動	観点の評価	授業時数	評価方法
4	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史と私たち ・歴史の特質と資料 ・巻頭特集 	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象が、日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解する。 ・資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。 ・近現代までの歴史の経緯と主要な宗教・文化について簡単に学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> a, b b, c c c c, b c 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ワークシートの提出・記述 ・授業のとりくみの様子 ・発言の様子 ・ノート点検 ・出席状況
4 7	<ul style="list-style-type: none"> ・18世紀の東アジアの繁栄 ・工業化の進展と国民国家の建設 ・結ぶ付く世界と日本の開国 ・帝国主義とアジア諸国の変容 	<ul style="list-style-type: none"> ・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会について学習する。 ・産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成について学習する。 ・18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成について学習する。 ・列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容について学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> a, b b, c c c c, b c 	20	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ワークシートの提出・記述 ・授業のとりくみの様子 ・発言の様子 ・ノート点検 ・出席状況
8 12	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦と大衆社会 ・経済危機と第二次世界大戦 	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制について学習する。 ・大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりについて学習する。 ・世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺について学習する。 ・第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸 	<ul style="list-style-type: none"> a, b b, c c c c, b c 	25	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ワークシートの提出・記述 ・授業のとりくみの様子 ・発言の様子 ・ノート点検 ・出席状況

	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦後の世界と日本 	<p>国の動向，戦後改革と日本国憲法の制定，平和条約と日本の独立の回復などを基に，第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史について学習する。 			
1 3	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭 ・世界秩序の変容と日本 	<ul style="list-style-type: none"> ・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国，冷戦下の地域紛争，先進国の政治の動向，軍備拡張や核兵器の管理などを基に，国際政治の変容について学習する。 ・西ヨーロッパや東南アジアの地域連携，計画経済とその波及，日本の高度経済成長などを基に，世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会について学習する。 ・石油危機，アジアの諸地域の経済発展，市場開放と経済の自由化，情報通信技術の発展などを基に，市場経済の変容と課題について学習する。 ・冷戦の終結，民主化の進展，地域統合の拡大と変容，地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に，冷戦終結後の国際政治の変容と課題について学習する。 	<p>a, b</p> <p>b, c</p> <p>c</p> <p>c</p> <p>c, b</p> <p>c</p>	20	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ワークシートの提出・記述 ・授業のとりくみの様子 ・発言の様子 ・ノート点検 ・出席状況

計 70 時間 (50 分授業)

5 課題・提出物等

- ・テーマ学習で使用する授業プリントは，授業で使用したのち提出します。
- ・長期休業等の課題について，課題プリントを提出します。
- ・授業ノートを学期ごとに提出します。

6 担当者からの一言

歴史総合は近現代の日本・世界の歴史を総合的に学ぶ科目です。現代世界は様々な課題を抱えています。その原因を知るには歴史を学ばなければなりません。自分たちの生きる時代をよりよく充実したものとするためにも、歴史を学んで課題のルーツを知り、解決法を主体的に考えることができる社会の形成者になって欲しいと思います。自分の生きている世界がどのように形成されてきたのか、常に現在の状況を意識しながら学習を深めていきましょう。

担当：笠原 真理子

令和 4 年度シラバス (地理歴史)

教科 (科目)	地理歴史(地理総合)	単位数	2 単位	学年 (コース)	1 学年
使用教科書	第一学習社『高等学校 地理総合－世界を学び、地域をつくる』 帝国書院『新詳高等地図』				

1 学習目標

<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。第一に、地理に関わる諸事象を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。第二に、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、各観点から着目して、各種概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。第三に、地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。</p>
--

2 指導の重点

<p>① 中学校社会科との関連を図るとともに、基礎・基本的な事柄を中心に指導内容を構成する。 ② 新聞やニュースの話題を取り入れ、身近な地域や社会・世界に目を向けられるようにする。 ③ 作業学習を多く取り入れ、内容がより深く理解できるようにする。</p>

3 評価の観点と規準、評価方法

観点	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的にしらべまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深めている。
評価方法	定期考査、レポートやワークシートなどの提出物、授業中の発言・取り組みの様子、出席などから総合的に判断し評価する。		

4 学習計画

月	学習内容	学習活動 (指導内容)	観点の評価	時間	評価方法
4 5	第1編 1章 地図や 地理情報シス	・地図を持たない人々の生活を想像し、地図の有用性に気づくとともに、利用しやすい工夫が現在まで続けられていること	c	8	ワークシート 記述の点検

	<p>テムと現代世界</p> <p>1節 球面上の世界と地図</p>	<p>を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球上の位置をあらわすために緯度・経度が定められたことと、地軸の傾きによる季節変化と時差の存在を理解し、科書掲載の時差の計算のワークに積極的に取り組むことで、日本の標準時における諸外国の時間と生活のようすを想像することができる。 ・地理学習の基本的な技能として、地図の縮尺や方位に注意しながら、地図上の情報を読み解く有用性を理解する。 ・インターネットを使ってさまざまな Web 地図にアクセスし、日常的に使われている GNSS や GIS など、新しい地図表現の役割を理解する。 	<p>a</p> <p>b</p> <p>a</p>	<p>作業の様子</p> <p>発表の様子</p> <p>ワークシート 記述の点検</p> <p>定期考査</p>
5 6	<p>2節 国家の結びつきとグローバル化する社会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現代世界を構成する基本単位の国家とは何かを理解し、交通・通信の発達によって、生活、社会、産業、国家間の関係がどのように変化したかを時系列で理解する。 ・さまざまな情報手段を用いて、現在世界で起こっている国境・領土問題について調べるとともに、日本の領域と周辺国との領土問題にはどのようなものが存在するか、理解する。 ・グローバル化の中で、人・「もの」・資本の国際間移動の複雑化や、国家的結びつきの変化に気づき、国家が自国の利益などのために結んでいる国際機関の変遷を学習する。 ・インターネットショッピングを事例に、情報技術や物流、金融など、さまざまなサービスがかかわってくることを、実験とともに考える。 	<p>a</p> <p>c</p> <p>a</p> <p>b</p>	<p>8</p> <p>ワークシート 記述の点検</p> <p>発表の様子</p> <p>ワークシート 記述の点検</p> <p>発表の様子</p> <p>定期考査</p>
7 9	<p>第2編 国際理解と国際協力</p> <p>1章 生活・文化の多様性と国際理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人々の生活様式の差異を通して、地理的環境が及ぼす影響について学ぶ。 ・世界の自然環境は地域的に大きく異なることを、気候の面からとらえる。 ・世界の気候帯ごとに、どのような特徴があり、どのような生活が営まれているのかを学習する。 ・その地域の自然環境と、歴史や文化といった社会環境の影響を色濃く受けた世界の特色ある生活文化を、さまざまな衣食住の事例を通して学ぶ。 ・世界の特色ある生活文化にはどのようなものがあるか関心を持ち、地域固有の自然環境や歴史、風土に基づいて形成されたと同時に、グローバル化のもとで新たな変化が生じていることを学習する。 ・祭りやスポーツ、音楽などの伝統と現代社会の影響を受け、変化が見られる事例を学び、現代世界の諸事象を読み解く視点を身につける。 	<p>c</p> <p>a</p> <p>a</p> <p>b</p> <p>c</p> <p>b</p>	<p>16</p> <p>ワークシート 記述の点検 発表の様子</p> <p>ワークシート 記述の点検</p> <p>発表の様子</p> <p>ワークシート 記述の点検</p> <p>発表の様子</p>

		<ul style="list-style-type: none"> 多様なアイデンティティを持つ世界の人々と共生していくためには、他者の文化を尊重するとともに、自らの文化を知ることが重要であることを学ぶ。 	c		<p>発表の様子</p> <p>定期考査</p>
10	<p>2章 地球的課題と国際協力</p> <p>1節 持続可能な社会を目指して</p> <p>2節 すべての人々の尊厳と平等が守られた社会に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> 5つのPの枠組みを活用して、持続可能な開発目標（SDGs）の考え方を学び、地理で学習する地球的課題が教科をこえた探究的な課題につながることを理解する。 現在、直面している地球的課題にはどのようなものがあるかに注目し、それらは相互に関連し、地域によって現れ方が異なることを、人口問題、食料問題、居住・都市問題、資源・エネルギー問題、地球環境問題といった具体的な事例を通して理解する。 地球的課題の解決の困難さや、地域差を学習し、その地域性に応じた取り組みが必要であることを理解する。 SDGsの達成に向け、さまざまな主体による国際協力の重要性を学ぶと同時に、企業の社会的責任やエシカルな消費者としての取組を通して、自らの行動を見直すことができる。 各地球的課題について、地域性を踏まえて把握するとともにその問題の所在や解決の方向性を図書館やインターネットなどで調べ、話し合う。 	<p>c</p> <p>c</p> <p>a</p> <p>a</p> <p>b</p>	8	<p>ワークシート記述の点検</p> <p>ワークシート記述の点検 発表の様子</p> <p>ワークシート記述の点検 発表の様子</p> <p>作業の様子 発表の様子</p> <p>定期考査</p>
11	<p>3節 自然と調和した豊かな社会に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能なライフスタイルの実現には、さまざまな認証制度を活用した消費者としての行動が重要であることを理解し、身近な認証制度を調べ、まとめることができる。 資源・エネルギー問題について、資源の限界性と偏在性を理解し、原子力発電を含む世界のエネルギー利用の変化と新エネルギー開発の必要性について考察する。 居住・都市問題について発展途上国ではスラム、先進国ではインナーシティ問題などが現れていることを理解する。 通学路や学校周辺の空き家など、身の回りの都市問題に関心を持ち、地域の課題 	<p>b</p> <p>c</p> <p>a</p> <p>b</p>	8	<p>作業の様子 発表の様子</p> <p>ワークシート記述の点検</p> <p>ワークシート記述の点検</p> <p>作業の様子</p>

	4節 現役世代と将来世代のための地球	<p>解決に向け学習した内容を振り返ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地球環境問題のうち、酸性雨・地球温暖化・森林破壊と生物種の減少・砂漠化を例に学び、世界的な取り組みと地域に応じた取り組みが必要であることを理解する。 生物多様性に配慮した持続可能な産業や生活文化が身近なところで営まれていることを理解する。 	c a		<p>ワークシート 記述の点検 発表の様子</p> <p>ワークシート 記述の点検</p> <p>定期考査</p>
12	5節 平和で公正な社会に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 国際社会の中で日本が果たすべき役割を認識し、国際協力について、グローバルに考える視点と身近な問題として考える視点を身につける。 世界の民族とは、共通の帰属意識（アイデンティティ）を持つ集団であり、世界の多くの国は複数の民族により構成される多民族国家であり、多文化社会を構成して多民族が共生している国もあれば、内部に対立を抱える国も存在することを理解できる。 NGO や NPO による国際協力や、CSR にもとづいた企業の国際協力、消費者の立場で自ら取り組む国際協力など、さまざまな形のパートナーシップについて理解できる。 	c b a	6	<p>ワークシート 記述の点検</p> <p>発表の様子</p> <p>ワークシート 記述の点検</p> <p>定期考査</p>
1 2	第3編 持続可能な地域づくりと私たち 1章 自然環境と防災	<ul style="list-style-type: none"> 世界を大きく変動帯と安定大陸で分類し、多くの自然災害は変動帯で起きていることを理解する。 変動帯はプレートテクトニクスによって説明され、日本列島は4つのプレートがぶつかり合っていることを理解する。 変動帯で見られる地震や火山の特徴を体系的に学び、その備えについて具体例を通して理解する。 防災や減災のために地形図を活用するため、地形図の読図について理解する。 降水強度の高い湿潤な日本の気候環境を把握し、地形に応じた防災・減災のあり方について理解を深める。 地形の状態に応じて暮らしてきた日本の村落・都市立地を理解し、地形改変による生活環境の変化が人々の暮らしにどのような影響をもたらしたか考察する。 生活に影響を与えている気候、局地的な気候について理解し、気候によって異なった特徴を見せる生活・文化について、インターネットや周りの人から具体例を積極的に聞き出し、グループで話し合う。 	a a a c a b b	1 4	<p>ワークシート 記述の点検</p> <p>ワークシート 記述の点検</p> <p>ワークシート 記述の点検</p> <p>作業の様子</p> <p>発表の様子</p> <p>ワークシート 記述の点検 作業の様子</p> <p>作業の様子 発表の様子</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害の多い日本列島で、人々の生活に大きな影響を与える火山災害・水害・地震について、自然現象やこれまで受けてきた災害の歴史を理解するとともに、先人の知恵が詰まった、災害に備え、災害とともに暮らす生活について関心をもって考察する。 ・自らが住む地域のハザードマップをインターネットで検索したり、市役所や町役場で発行しているハザードマップを入手したりして、最も起こりやすいと想定されている災害は何か、また避難時に障害となるところはどこか、など、地域とそこに住む住民とともに減災に向けて意欲的に取り組む。 ・自然災害からの復興を困難にする複合災害について具体的な事例を通して理解し、これまで学んだ対策を組み合わせるために必要な行動について考察できている。 	b		作業の様子 発表の様子
			c		ワークシート 記述の点検 作業の様子
			b		ワークシート 記述の点検 発表の様子 定期考査
3	2章 生活圏の調査と地域の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・地域調査について、積極的な調査を実施できるよう、地域調査の必要性を理解し、地域調査の基本を身につける。 ・地域調査の一環として、資料収集・現地調査を行い、的確な統計地図やグラフを作成して報告書をまとめ、発表する。 	c		作業の様子 発表の様子
			b	2	作業の様子 発表の様子

計 70 時間 (50 分授業)

5 課題・提出物等

・授業プリント ・課題プリント

6 担当者からの一言

地理総合は現代世界の地域を中心に、歴史・風土・文化などの多方面から眺める授業です。地理を学び、色々な地域を知ると世の中を見方や考え方が広がります。多くの事柄を学び、実生活の糧となるように一緒に学んでいきましょう。

(担当：小池 智紀)

令和4年度 シラバス (地理歴史)

教科 (科目)	地理歴史(世界史B)	単位数	2単位	学年 (コース)	2学年
使用教科書	東京書籍『新選世界史B』				
副教材等	第一学習社『ダイアログ世界史図表新版五訂』				

1 学習目標

世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 指導の重点

世界の歴史に対する興味関心をもち、レポートをまとめたり発表したりすることで主体的に学ぶ姿勢を身につける。1年次で学習した日本の歴史と関連づけながら、世界の諸地域で形成されてきた歴史や文化に対して理解を深める。

3 指導計画

月	学習内容	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	地球と人類の始まり	人類誕生	6	授業態度 発問評価
5	西アジア世界・地中海世界の形成	オリエント文明・ギリシア世界・ローマ帝国	6	提出課題 中間考査
6	南アジア世界・東南アジア世界の形成	古代インド文明・ヒンドゥー国家と社会 東南アジアの形成	8	授業態度 発問評価 提出課題
7	東アジア世界・内陸アジア世界	中国の古典文明・中華帝国の形成 中国の分裂と遊牧国家	6	期末考査
9	イスラーム世界の形成と拡大	イスラーム国家の成立 軍人政権時代	7	授業態度 発問評価
10	ヨーロッパ世界の變動	ビザンツ帝国と東ヨーロッパ 西ヨーロッパ世界	8	提出課題 中間考査
11	内陸アジア世界と諸地域世界	北方民族と宋 モンゴル帝国	8	授業態度 発問評価
12	アジア諸地域世界の繁栄と成熟	明・清の繁栄・東アジア諸国の発展	21	提出課題
1		期末考査		
2				
3				

計 70 時間 (50 分授業)

4 課題・提出物等

・授業プリント ・課題プリント (どちらも定期考査後に提出する)

5 評価規準・評価方法

観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
評価規準	世界の諸地域の形成や関連性について関心をもち、意欲的に学習をしている。	世界史の諸事象について主体的に考察を行い、その原因や影響について文章にまとめ、表現している。	教科書や図説の写真や資料を適切に活用している。	世界の歴史の諸事象について、理解し基本的な知識を身につけている。
評価方法	定期考査、提出物、授業態度・出席等から総合的に判断し評価します。			

6 担当者からの一言

わたしたちが生きている現代の世界は、どのように形成されてきたのでしょうか。また、現代のわれわれが抱えている様々な問題は、どのように生まれてきたのでしょうか。世界史の勉強を通じて、一緒に考えてみましょう。

(担当：小池 智紀)

令和4年度 シラバス (地理歴史)

教科 (科目)	地理歴史(世界史B)	単位数	3単位	学年 (コース)	3学年
使用教科書	東京書籍『新選 世界史B』				
副教材等	第一学習社『ダイアログ世界史図表 新版四訂』				

1 学習目標

世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 指導の重点

世界の歴史に対する興味関心をもち、レポートをまとめたり発表したりすることで主体的に学ぶ姿勢を身につける。1年次で学習した日本の歴史と関連づけながら、世界の諸地域で形成されてきた歴史や文化に対して理解を深める。
--

3 指導計画

月	学習内容	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	近世ヨーロッパ世界の形成	・大航海時代やルネサンス・宗教改革がヨーロッパ社会に与えた影響について理解する。	10	授業態度 発問評価
5	近世ヨーロッパ世界の展開 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	・ヨーロッパ列強の海外進出をはじめとする世界の一体化について理解する。 ・アメリカの独立やフランス革命を通して、市民と国家の関係の推移を理解し、現代社会とのつながりを理解する。	10	提出課題 中間考査
6	欧米における近代国民国家の発展	・ウィーン体制や国民国家の形成を取り上げ、ヨーロッパを中心とした自由主義とナショナリズム運動の展開について理解する。	14	授業態度 発問評価 提出課題
7	アジア諸地域の動揺	・世界市場の形成を背景にしたヨーロッパ列強の干渉によって、西アジアやインド、東アジア諸国が変容していった過程について理解する。	10	期末考査
9	帝国主義とアジアの民族運動	・欧米列強の帝国主義によって世界各地がどのように植民地化され、またどのような抵抗をみせたのか理解する。	14	授業態度 発問評価
10	第一次世界大戦とロシア革命	・大戦とロシア革命が国際秩序にもたらした大きな変革について理解する。	14	提出課題 中間考査
11	ファシズムと第二次世界大戦	・大戦に至る過程とその背景にあるファシズムについて理解する。	14	授業態度 発問評価
12	現在の世界冷戦と第三世界の独立	・戦後世界の再編と変容を、冷戦を中心に理解し、現代における地球世界の課題解決について考察する。	19	提出課題 期末考査
1				
2				
3				

4 課題・提出物等

・授業プリント ・課題プリント (どちらも定期考査後に提出する)

5 評価規準・評価方法

観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
評価規準	世界の諸地域の形成や関連性について関心をもち、意欲的に学習をしている。	世界史の諸事象について主体的に考察を行い、その原因や影響について文章にまとめ、表現している。	教科書や図説の写真や資料を適切に活用している。	世界の歴史の諸事象について、理解し基本的な知識を身につけている。
評価方法	定期考査、提出物、授業態度・出席等から総合的に判断し評価します。			

6 担当者からの一言

わたしたちが生きている現代の世界は、どのように形成されてきたのでしょうか。また、現代のわれわれが抱えている様々な問題は、どのように生まれてきたのでしょうか。世界史の勉強を通じて、一緒に考えてみましょう。

(担当：小池 智紀)

令和4年度 シラバス [地歴公民]

教科(科目)	地理歴史(日本史A)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年(文理コース選択)
使用教科書	高等学校 改訂版 日本史A 人・くらし・未来(第一学習社)				
副教材等	プロムナード日本史(浜島書店)				

1 学習目標

我が国の歴史の展開を世界史的視野に立って総合的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めることにより、歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

2 指導の重点

- ① 中学校までの学習の基礎の上に、高校レベルでの基礎的な日本史の成立過程を考察する。
- ② 時代が移り変わる社会的な背景や、各時代の特徴を考察する。

3 指導計画

月	指導内容・教材	評価方法
4	近代への胎動 1 せまってくる外国船 2 ちからを蓄える庶民 3 近代思想のいぶき	定期考査・課題提出・ 授業態度
5	明治維新 1 黒船がやってきた 2 志士たちの時代 3 手を結ぶ薩長 4 近代との出会い 5 江戸から東京へ	
6	近代国家の確立 1 天皇の軍隊 2 スローガンは「富国強兵」	定期考査・課題提出・ 授業態度
7	3 欧米文化がはいつてきた 4 日本の国境が定まった 5 爆発する農民や士族の不満 6 国会開設 7 地主制の進行 8 立憲政治のはじまり 9 初めての国会	
9	対外関係の変化 1 欧米と肩を並べる国をめざして 2 清国との対立 3 ロシアとの戦争 4 アジアへの侵攻	定期考査・課題提出・ 授業態度
10	政党政治の展開 1 藩閥と政党の接近 2 民衆が政治を動かす 3 「平民宰相」の登場	
11	近代産業の発展と社会運動の展開 1 日本の生糸が世界を制する 2 欧米の資本主義に仲間入り 3 貧富の差が広がり 4 抑圧からの解放をめざして	定期考査・課題提出・ 授業態度
12	国民生活の変化と文化 1 明治の国家主義と大正デモクラシー 2 教育制度の進展	

	3 多彩な学問と近代文学の発展 4 新しい文化とモダンな都市	
1	第一次世界大戦と日本 1 日本の世界大戦への参加 2 日本への朝鮮・中国の民衆の抵抗	定期考査・課題提出・ 授業態度
2	3 欧米に歩調をあわせた 4 成金の時代	
3	第二次世界大戦と日本 1 恐慌の嵐が吹き荒れる 2 日本の外交の行きづまり 3 軍部の暴走 4 中国との戦い 5 アメリカとの戦争 6 アジア・太平洋諸民族への戦争拡大 7 戦争の終結	

計70時間（50分授業）

4 課題・提出物等

①単元別プリント
②ノート提出（定期考査ごと）

5 評価規準・評価方法

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
日本の歴史の形成や過程について関心を持ち、意欲的に学習をしている。	日本史の諸事情について主体的に考察を行い、その原因や影響について文章にまとめ表現している。	教科書や図説の写真や資料を適切に活用している。	日本の歴史の諸事情について理解し、基本的な知識を身につけている。

6 評価方法

①定期考査②提出課題（定期考査対策プリント・ノート）③授業態度（出席）等から総合的に判断し評価します。

7 担当者からの一言

<p>日本史Aで扱う内容は、近現代が中心になります。日本史を学ぶことは、ただ単に知識を詰め込むことではありません。過去を知り、考えることを通して、現代の日本社会の課題、さらには未来の日本について考えることでもあります。より大きな視点に立てば、地球規模で人類の危機が叫ばれている今だからこそ、人類の発展の歴史を見直す必要があるともいえます。日々の学習を積み重ねることで、新しい未来をきりひらくことのできる歴史観・歴史意識をつくっていきましょう。</p> <p style="text-align: right;">担当：笠原 真理子</p>

令和 4 年度 シラバス [地理歴史]

教科 (科目)	地理歴史(地理 A)	単位数	2 単位	学年 (コース)	3 学年 (文理コース選択)
使用教科書	『高校生の地理 A』 (帝国書院) 『新詳高等地図』 (帝国書院)				
副教材等	『世界の諸地域 NOW2022』 (帝国書院)				

1 学習目標

現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察する。現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、身近な社会や国際社会に関心を向ける。

2 指導の重点

- ① 中学校までの学習の基礎の上に、高校レベルでの基礎的な知識を増やしていく。
- ② 新聞やニュースの話題を取り入れ、身近な地域や社会・世界に目を向けられるようにする。
- ③ 作業学習を多く取り入れて内容がより深く理解できるようにする。

3 指導計画

月	学習内容	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4 5	球面上の世界 世界地図の特徴 国家の領域と領土問題 問題一体化する世界	・球面上の世界を、地図を使った作業を通して理解する。 ・世界の領土問題を取り上げ、国家とは何かを考察する。 ・交通、通信の発達によって、生活・社会・産業の関係がどのように変化してきたかを理解する。	1 4	授業態度 発問評価 提出物 中間考査
6 7	さまざまな地形 世界の気候 世界の民族・宗教	・自然環境を地形と気候の面から大きくとらえ、人間生活にどのように影響しているかを理解する。 ・世界の人々がもつ民族性や言語・宗教について理解を深める。	1 6	授業態度 発問評価 提出物 期末考査
9 10	世界各地の暮らし	・世界の諸地域を取り上げ、それぞれの自然環境や民族・宗教、産業の地域性や課題を理解する。	1 6	授業態度 発問評価 提出物 中間考査
11 12	地球的課題 身近な地図	・現在直面している地球的課題を理解し、解決に向けてどのような取り組みが必要かを考察する。 ・身近な地図を用いて、地図の読み方活用の仕方を理解する。	1 6	授業態度 発問評価 提出物 期末考査
1 3	日本の自然災害	・日本の自然災害について理解し、それに対する備えについて考察する。	8	授業態度 発問評価 提出物 学年末考査

合計 70 時間 (50 分授業)

4 課題・提出物等

・授業プリント ・課題プリント

5 評価規準・評価方法

観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
評価基準	地理的な諸課題に対する関心と課題意識をもち、国際社会に主体的に生きる人としての責任を果たそうとしている。	地理的事象から課題を見だし、地域性を踏まえて公正な判断し、考察の過程や判断した結果を表現できる。	地図や統計、画像などの資料を収集、選択、活用することで、地理的事象を追究する技能を身につけている。	地理的な諸課題についての基本的な事柄を理解し、その知識を身につけている。
評価方法	定期考査、提出物、授業態度・出席等から総合的に判断し評価します。			

6 担当者からの一言

地理は現代世界を、地域を中心に歴史・風土・文化などの多方面から眺める授業です。地理を学び、色々な地域を知ると世の中を見方や考え方が広がります。多くの事柄を学び、実生活の糧となるように一緒に学んでいきましょう。

担当：小池 智紀